

9月6日に発表された米国の8月雇用統計の内容は、金融市場の想定を揺るがすようなものではありませんでした。前月の同統計発表後に米ドル(対円)レートや日本株式が大幅に下落しただけに、今回の発表内容が大変注目されていましたが、雇用の伸び、前月に驚かされた失業率の上昇率、ともに市場の予想通りに落ち着きました。結果として、市場が気にしている9月以降のFRB(米連邦準備制度理事会)による政策金利引き下げの幅について、新しい情報は得られませんでした。市場も発表直後は大きく動きませんでした。

しかし、その後、FRBのウォラー理事が「利下げの程度はデータ次第」と当然の発言をしたことに市場は少々困惑し、米金利が低下、米ドル(対円)レートは142円程度へ米ドル安・円高が進み、NYダウ工業株30種も約410米ドル下落しました。これらは複雑な市場心理の表れで、市場参加者が前もって考えていた、9月0.5%ポイント利下げ、その後は四半期毎に0.25%ポイント程度利下げしてい

くという早期大幅利下げの期待が後退し、9月0.25%ポイント利下げ、その後出遅れ気味に0.5%ポイント程度ずつ下げるとい見方に変化したようです。これは、利下げの遅れで景気悪化と株安、後になっての大幅利下げを先読みした米ドル安、という意味になります。そもそも「データ次第」ですから、FRB高官の発言に一喜一憂しても仕方ないことですが、市場心理がFRBの失敗で景気後退(可能性は低い)がマイナス成長となる)を恐れる方向に傾いたといえるでしょう。

今後、景気指標が安定するまで、景気減速(低めの成長率だがマイナス成長ではないソフトランディング)と景気後退との間で市場心理が(データ次第で)揺れ動くことになりそうです。

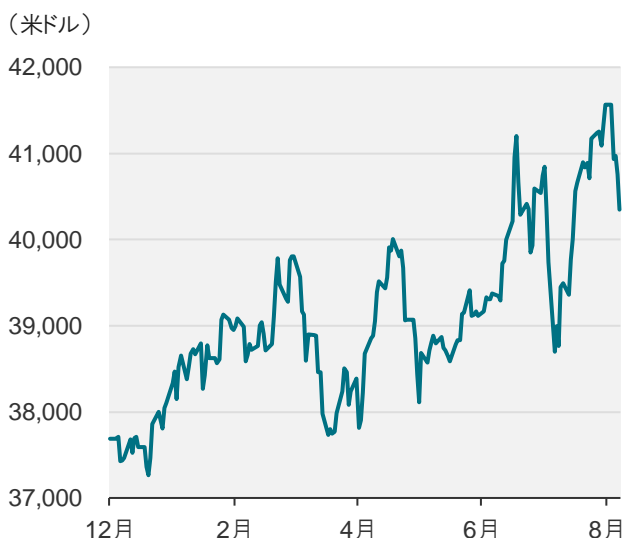
### [米ドル(対円)レートの推移]

(2023年12月末～2024年9月6日)



### [NYダウ工業株30種の推移]

(2023年12月末～2024年9月6日)



信頼できると判断した情報に基づき、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。